二〇二一年一一月一三日

黄落が塗りつぶしたる街路かな　わかば

上がり根の太きに積もる落葉かな　こすもす

紅葉狩渓空を占むひつじ雲　よう子

寺庭の秋七草にめぐりけり　はく子

木喰仏に髭の落書きうそ寒し　うつぎ

七半のライダーは古希草紅葉　かかし

合戦地敵味方なく木の実打つ　なつき

照紅葉ダム湖の碧のなほ深し　素秀

合掌の軒高く積む年木かな　凡士

ロープウェイ紅葉の渓をひと跨ぎ　素秀

石室に射し込むつるべ落としの日　うつぎ

診察券数多溜まりて冬に入る　なつき

色葉散る祇王寺下る人追ひて　素秀

寡婦どうし話は尽きず暮の秋　むべ

かはらけのピシャリと谷へ秋気澄む　うつぎ

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年一一月一四日